

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	マイ好奇心探究コース		訪問国	アメリカ合衆国	
学校名	静岡県立静岡高等学校	氏名	笠井洋子	学年	2年

私は犬を飼い始めたことで、動物愛護に興味を持ちました。そして、テレビでファシリティドッグという病院でハンドラーと共に平日は毎日働く犬がいるということを知り、ファシリティドッグを日本に長年提供してきたハワイにあるファシリティドッグ育成施設である Assistance Dogs of Hawaii さんを訪れ、本場でどのようにファシリティドッグが育成され、病院でどのように働くことで患者の方々の心のケアをしているのか、そしてどのようにそれらの犬のストレスケアが行われているのかを探究したいと思い、この留学を計画しました。

留学前には自分が通っている学校でファシリティドッグの認知度を測るためのアンケート調査を実施しました。そこで、150人の方から回答をいただきました。ファシリティドッグを知っている人はそのうちの10%で、病院で犬が働くことに賛成する人は68.2%と多かったです。犬に対するイメージは可愛いや賢い、癒しのようなプラスのイメージが多いが、噛みそうや汚いのようなマイナスのイメージも見られ、日本では犬に対する印象は良いものの、公共施設で犬が働くことに対する抵抗感が強いのだということがわかりました。



留学中には Assistance Dogs of Hawaii さんに普段のファシリティドッグの仕事の様子や訓練の様子、ケアの仕方、ストレス解消方法を教えていただいたり、Hawaiian Humane Society というハワイにある動物保護施設を見学させていただき、保護動物のストレス解消法についても教えていただきました。ファシリティドッグの訓練は、おやつを使い、うまく行ったらおやつをあげることを繰り返すことで行っていました。病院見学の際に癌の男の子にファシリティドッグが寄り添っているのを見学して、その男の子がリラックスしているように見え、その子にとってファシリティドッグとの時間が特別なのだとわかりました。また、患者だけではなく、その家族や医療従事者までもファシリティドッグが来た時に嬉しそうだったので、ファシリティドッグは病院全体を明るくし、人々の人生を豊かにするということがわかりました。普段のケアはファシリティドッグがリラックスできるようにされており、ストレス解消のために定期的な休憩や十分な運動、ハグなどをしたりしていました。また、動物保護施設では体の大きさに合わせて十分なスペースが確保されている個室がそれぞれに与えられていたり、ボランティアの方によって全ての犬が1日2回散歩に連れて行ってもらっていたり、落ち着くように穏やかな音楽が流れていたりしました。



留学中にハワイで、日本と同じ質問内容で行ったファシリティドッグの認知度調査をしました。ハワイの方からは21人から回答をいただき、ファシリティドッグを知っている人はそのうちの33%で、病院で犬が働くことにはハワイの方全員が賛成していました。日本と違い、働く犬が社会に受け入れられていることがわ

かりました。犬に対する印象は可愛いや賢い、好き、家族の一員などプラスなものばかりで、マイナスな印象はなく、犬が働いているのを見たことがある場所として、約 62%の方が病院、9.5%の方が日本では出てこなかった裁判所や学校を挙げていました。

日本とハワイのファシリティドッグに対する認知度を調査してみて、日本よりもハワイの方が認知度が高く、病院で働く犬に対して賛成する人も多いことや、裁判所や学校でも働いている犬を多くの人々が見たことがあることから、ハワイの人々は公共施設に犬がいることにより慣れていたり、犬に対して信頼を寄せられていると考えられました。そして、サービスドッグのオルに会わせていただきましたが、オルを飼っている障害を持つ方が、オルは身体的にも支えてくれるし、人生の目的や行動をする機会を与えてくれる、オルがいるから散歩に毎日2回出かけ、社会と関わることができているとおっしゃっていました。そのことから、ファシリティドッグのような働く犬は人々を精神的にも身体的にも支え、人々に生きる目的や行動の機会を与え、人々と社会を繋いだり、人々の生活をより活発にしたりするなど影響を与えることがわかりました。そして、人は人のために働いてくれる犬たちを一番に大事にし、日々のケアや運動、定期的な休憩を十分に行うことでストレス解消を行うことができ、犬も人もお互いが幸せになることができると考えました。

そして、私の最終目標は人と犬の幸せな共生社会を作ることですが、ハワイのような人と犬の幸せな共生社会を作るためには、日本の人々の動物に対するイメージをよくすることや、人々が小さな頃から、動物への正しく、愛のある関わり方を学ぶことが必要であるため、動物に関する教育を学校で行うことが必要だと考えました。Hawaiian Humane Societyさんは毎年ハワイにある150校ほどの学校で動物に関する講義をしていますが、そのような教育を行っていくといいと思います。それによって人々の動物に対するイメージが変わり、ファシリティドッグがより普及することにつながります。その後、その他にも裁判所で働くコートハウスファシリティドッグや学校で主にカウンセラーと共に働くスクールドッグなどを導入していくことで、人々にとってより幸せな社会を作れると考えています。そして、犬にただ働いてもらうだけではなく、働く犬のストレス解消もしっかり行うことや、動物たちのための質の良い保護施設を保つこと、そこに地域の人々が積極的に参加していくことで動物にとっても、人にとっても、幸せな共生社会を作ることができると考えました。

